シラバス
【A—２１】

平成23年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

担当研究科名	経済学研究科	横断区分	文理横断型	開講場所	吉田キャンパス経済学研究科演習室にて開講予定
授業科目名	現代資本主義分析 A			講義担当者所属・氏名	経済学研究科　宇仁宏幸

配当学年	修士 博士後期 専門職	単位数	2単位	開講期	後期	曜時限	金４限 （14:45-16:15）	授業形態	演習

〔授業の概要・目的〕

地球温暖化の経済学がこの授業のテーマである。

地球温暖化がほぼ確実なものであることが自然科学によって明らかにされた現在、経済学は次のような問いに答えなければならない。地球温暖化の経済的コストをどのように測るか。地球温暖化を回避するために、どのような諸制度、諸政策が必要か。さらに、このような問いに既存の経済学は十分に答えることができるのか。答えられないとすれば、経済学自体はどのように変わらなければならないか。このような諸問題を、この授業ではとりあげ、検討する。

過去を振り返ると 20 世紀の経済学の主な課題は、失業問題であった。1929 年の大恐慌とその後の大失業の原因と対策を明らかにできなかった当時の主流の経済学は、ケインズの理論によって刷新された。そのころと同じほどの大きなインパクトを、地球温暖化問題は、経済学に対して、及ぼすかもしれない。実際、経済理論に、地球温暖化問題を取り込み、既存の経済理論を刷新しようとするいくつかの試みがすでに始まっている。この授業では、そのような先進的試みを素材としてとりあげ、検討することを通じて、地球温暖化問題への経済学的アプローチの理解を深める。そして、既存の経済学の限界と、その限界を超える新たな経済学の枠組みはどのようなものであるかを習得する。

なお、3、4 回程度は参加者自身の研究報告にあてる。

【研究科横断型教育の概要・目的】

地球温暖化問題は、多様なアプローチが必要な問題であるし、文理の垣根を超えた協力なしには解決できない問題である。その意味で、この科目は他研究科の聴講を促している授業科目である。

〔授業計画と内容〕

第1回　　授業の全体の概要と進め方の説明
第 2～3 回　下記①の教科書の主要な章の検討（再生不可能資源を経済学にどのようにとりいれるか、環境経済計算の方法、完全雇用と持続可能性は対立するか）
第 4～7 回　下記②の教科書の主要な章の検討（グローバル・エコシステムの一部としての経済システム、政策目標の転換：成長から最適規模へ、持続可能な規模・公正な分配・効率的な配分）
第 8～11 回　下記③の教科書の主要な章の検討（スターン報告の評価、途上国の発展する権利と温室効果ガス削減分担、エコロジカル・マクロ経済学、環境税と排出量制限・取引制度との比較、温室効果ガス削減資金調達）
第 12～15 回　参加者自身の研究報告

〔履修要件〕

学部レベルの経済学の教科書（英語）を読めること。

〔成績評価の方法・基準〕

出席回数および報告内容により評価する。

〔教科書〕

① Goodwin, N.R.,, Nelson, J.A. and Harris, J.M. (2009) *Macroeconomics in Context*, M.E. Sharpe.
② Daly, H.E. and Farley, J. (2011) *Ecological Economics: Principles and Applications*, 2nd Edition, Island Press.
③ Harris, J.M. and Goodwin, N.R., (ed.) (2009) *Twenty-First Century Macroeconomics: Responding to the Climate Challenge*, Edward Elgar.

〔参考書等〕
〔その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）〕
教科書の指定する範囲（毎回 20～50 ページ程度）を事前に読んでから、授業に参加すること。